

北海道の 学校図書館

発行 北海道学校図書館協会
 会長 齋藤 昇一
 事務局長 黒澤 敏行
<http://sla.gr.jp/~hokkaido-sla/>
 印刷所 (株) 有伸商会
 TEL (011)814-6211

第42回北海道学校図書館研究大会 札幌大会を終えて



札幌大会運営委員長 荻原 啓
 (札幌市立平岡緑中学校長)

9月1日(金)、2日(土)の2日間、全道各地より多数の皆様のご参加をいただき、第42回北海道学校図書館研究大会札幌大会を無事終了することが出来ました。振り返れば、大会の計画立案の段階から大会運営は苦難の連続でしたが、関係諸機関及び北海道学校図書館協会の皆様によるご指導やご助言をいただき、大変充実した内容にすることが出来たのではないかと考えております。

研究大会の開催は、多くのエネルギーを必要としますが、その負荷によって得る貴重な財産もあります。今回でいえば、全道各地よりご参加いただいた皆様や授業・提言・ご助言をいただいた皆様、大会運営委員の皆様や記念講演の講師 亀山達矢 様、セッション講師の皆様とつながりを持てたこと。さらには、札幌市の学校図書館の「今」を全道の皆さんにご覧いただき、忌憚のないご意見を頂戴できたこと。これらの一つ一つを通して、人と人とのつながり、研修の深まりを、確かな手ごたえとして感じる事ができました。そして、共に汗を流した運営委員の皆様との出会いもまた、かけがえのない財産となりました。おかげさまでもちまして、今後の札幌の学校図書館教育を充実させる基盤作りにも繋がったと考えております。2年後の旭川大会にも、今回の札幌大会が少しでも役に立てたならばこんなにうれしいことはありません。

学校図書館を取り巻く教育界の動きに目を向けますと、昨年、「学校図書館ガイドライン」が文部科学省から発表されました。その目的は、学校図書館をめぐる現状と

課題を踏まえ、さらなる学校図書館の整備充実を図るため、教育委員会や学校等にとって参考となるよう、学校図書館の運営上の重要な事項についてその望ましい在り方を示すことにあります。これは、新しい学習指導要領の総則第4(11)の「学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、生徒の主体的、意欲的な学習活動や読書活動を充実すること。」と密接なかかわりを持っています。年々、学校図書館への注目度と期待は高まる一方です。しかしながら、その一方で現場には課題が山積したままです。「学校図書館ガイドライン」そのものが、この複雑な状況をもっとも象徴しているのかもしれませんが。

だからこそ今、研究大会に留まらずあらゆる機会を通して、学校図書館の望ましい在り方を具現化するために、一人でも多くの教職員が手をつないで行くことが、より一層必要となると考えます。学校図書館に携わる人々が力を合わせ、子どもたちの「主体的・対話的で深い学び」を支えるよう学校図書館を運営し、学校図書館を活用した授業を展開することで、子どもたちの「主体的・対話的で深い学び」を保障できるよう努力していきましょう。



絵本の魅力、絵本の新たな楽しみ方

聖ミカエル幼稚園 石山 咲紀



今回、初めて北海道学校図書館研究大会に参加させていただきました。学校の先生がたくさん参加されていたので少し緊張しましたが、とても有意義な2日間を過ごすことが出来ました。

絵本図書館で行われた公開保育には、クラス補助として参加させていただきました。そして、公開保育に向かうまでの保育の展開、子どもたちの様子などをずっと近くで見えてきました。お部屋に「うさちゃん」からの手紙が届いているのに気付き、大喜びで私に教えに来てくれたり、みんなでワンピースの模様を考えたり、「うさちゃんうさくんダンス」の振りを考えたり、子どもたちはとても楽しみながら素直にファンタジーの世界に

引き込まれていました。また、今城先生の提案に対して子どもたちが「いいこと思いついた！」とって自分の考えやアイデアを先生に伝えることで、「うさちゃん」のあそびがどんどん展開されていきました。子どもたち全員がわくわくしながら活動に参加しており、今城先生と子どもたちで作上げる「うさちゃん」の世界に、絵本一冊でこんなにも世界が広がり、こんなにも楽しむことが出来るのだと感動しました。そして、私自身とても楽しむことが出来ました。

2日目には、私が大好きだった「パンダ銭湯」を、作者である亀山達矢さんと一緒に読ませていただきました。絵本の作者の方と一緒に読ませていただくのは初めてでしたが、製作秘話を聞かせていただいたり、絵本の世界観に入り込むことが出来たりと、とても貴重な経験となりました。そして、ただ絵本を読むだけでなく、耳とサングラスを付けて、タオルを回して、歌を歌ってと、動きもたくさんあったので、思い切り楽しむことが出来ました。

私にとって今回の大会は、絵本の魅力が今まで以上に感じられるものとなりました。今までは自分で読んで物語を楽しむだけでしたが、絵本の世界をどんどん展開していき、子どもたちと楽しめることに感動し、絵本の新たな楽しみ方を発見することが出来ました。

豊かな学びを支える力

函館市立八幡小学校 加茂 有希子

このたび北海道学校図書館研究大会・札幌大会に、2日間参会させていただきました。

1日目は、あやめの小学校で3年生国語科の「学び方の指導」と、6年生社会科の「資料の活用」の授業を参観し、分科会は小学校の「学び方の指導」に参加しました。

3年生は選んだ本から必要な情報を的確に集め、要点を情報シートにまとめる「学び方」の基礎となる授業、6年生は札幌市の「寄託図書制度」と「ブックさあくる」を活用し、豊富な資料から必要な情報を集め、その中から必要な情報を精選するという授業研究でした。「学び方の指導」分科会で、「様々な教科の中で、計画的・継続的指導の大切さ」と、「情報・メディアを活用する学び方の指導体系表の大切さ」が話し合われましたが、あやめの小学校で拝見させて頂いた授業は、これら両方がしっかりと実践されていたと感じました。

また分科会の中で、各地の先生方の実践から感銘を受けたのは、図書館担当者や担任だけで「学び方の指導」に奮闘するのではなく、周囲の先生方を巻き込み「チーム図書館」で取り組む大切さでした。学校経営計画の中に「学び方の指導体系表」を盛り込み、普段の授業で取り組んでもらった結果、子ども達の図書館利用が向上したという報告や、上川管内教育研究会・学校図書班の先生方が連携し、子ども達の豊かな学びを支えている実践報告は、「主体的、対話的、深い学び」を掲げた、新しい学習指導要領の目指す方向とも重なるように感じました。

2日目は、お二人の講師から、絵本の魅力を堪能させていただきました。絵本・児童文学研究センター理事長、工藤佐千夫氏の「セッション4 昔話と日本人」と、tupera tupera 亀山達也氏の「記念講演」は、時が立つのを忘れるほどに楽しく、絵本の豊かさ、奥深さを、童心に帰って味わうことができました。

私は今回の大会を通して、先生同士の連携を大切にして図書館の活動を充実させることが、「豊かな学びを支える力」になることを痛感いたしました。素晴らしい授業や分科会、セッション、講演会の場を提供して下さいました札幌の先生方に心から感謝いたします。ありがとうございました。

「学ぶ楽しさ つながる世界」そして広がる「学校図書館の輪」

苫小牧市立明德小学校 教諭 鈴木 祐 亮

私が初めて北海道学校図書館研究大会（以下、全道大会）に参加したのが8年前の釧路で開かれた全道大会でした。当時、私は白老町立萩野小学校で司書教諭として様々な図書館活動や読書推進の取組を担当していたので、ぜひ参加してみたいと思い申し込みました。白老からの参加者は私一人だったと記憶しています。授業を参観し、分科会に参加した後、1日目の夜に開かれた交流会にも参加しました。今思えば誰も知っている人のいない中、どうして交流会に参加しようと思ったのか少し不思議です。交流会の中で、全道各地の学校図書館に熱い思いをもつ、たくさんの先生方と知り合いになりました。初めて参加した全道大会で、私は大会を通して幼稚園から高校まで「学校図書館教育」を軸に、その地域の先生たちがつながり、協力して大会を作り上げていることを知ってとても感銘を受けました。それから、次の音更大会、小樽大会、室蘭大会そして今回の札幌大会と毎回参加してきました。

今回の札幌大会では、公開授業や分科会やセッションなど、参加している人を見渡すと随分知っている人が多くなったことに気が付きました。以前の全道大会で会った人、冬の研修講座で一緒のグループになったことのある人、毎回交流会などで楽しい時間を一緒に過ごす先生達。札幌大会に参加して「学ぶ楽しさ」を感じ、たくさんの人との「つながり」と「学校図書館の輪」を再確認できました。

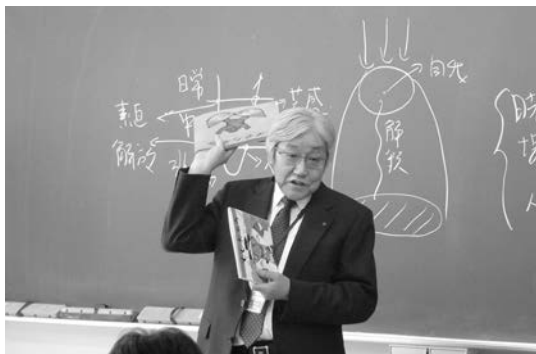
今まで全道大会に参加したことのない方は、ぜひ一度参加してみてください。そして参加している人たちの「熱」を感じてほしいと思います。全道大会に参加はしていただければ交流会までは出ることがなかったという方も、かつての私がそうであったように参加してつながりを広げてみてはどうでしょうか。私も次の旭川大会には苫小牧からたくさんの仲間と一緒に参加して「学ぶ楽しさ」と「つながり」を強め「学校図書館の輪」をますます広げていきたいと思っています。

基本的な「学び方の指導」の基盤の上に

網走市立潮見小学校 司書教諭 小松 秀 治

第1日目では、あやめ野小学校3年1組と6年1組の授業を見せていただきました。3年1組の「学び方の指導」をテーマにした授業では、『食べ物事典を作って、食べ物博士になろう』と設定し、子どもたちの学習意欲をしっかりと高めた上で単元の流れが作られていることがよくわかりました。また、3年生として図書館を使いこなすための基本的な学び方指導がきちんと事前に組まれており、その基盤に立った上で授業が組まれていることもよく伝わってきました。その日の授業だけではなく単元全体、年間の学び方指導全体を見据えた上で授業をされており、北海道学校図書館研究大会の研究の積み重ねがしっかりと実を結んでいる授業となっていることに感心しました。6年1組の「資料の活用」をテーマにした授業も多くのことを学ばせていただける授業でした。授業の最初から最後まで集中力を切らさずに学び続ける子どもたちの姿勢を見て、それを育んだ担任の学級経営力の高さにまず驚かされました。「江戸時代の文化・学問に関わる人物ポスターを作ろう！」という目標を立て、調べる対象を決定し、必要な資料を集めて情報カードを作成し、本時においては情報の比較と精選を行うという授業でした。グループ学習の形で活動が進められる中でも一人一人が積極的に活動に参加し、学習が進められていました。ポスター作りは後日の授業で行われる予定が組まれていましたが、きっとすばらしいポスターができあがるに違いないと思わせる授業を見せていただきました。

第2日目の分科会及びセッションもたくさんのことを学ばせていただきましたが、特に興味を引かれたのは



「昔話と日本人の心」セッションでの工藤先生のお話でした。専門分野である哲学の話も絡めながら、日本の昔話と西洋の昔話について、根源的などころで母性にもとづいたものが日本の昔話で、父性にもとづいたものが西洋の昔話であることなど、目から鱗が落ちるようなお話がどんどんと展開されました。昔話に科学的な分析を加えつつ、文化の違いを考えるという初めて体験する内容の講義を聴けて、絵本や昔話についてまだまだ勉強する必要があることを痛感させられました。

学びの機会を作って下さった多くの方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。

楽しい授業の裏には

旭川市立愛宕小学校 教諭 乙部 啓二

あやめ野小学校で行われた公開授業では、特別支援学級での国語科（読書指導）の授業を参観しました。この授業はアニメーション的な手法を用います。読み聞かせを聞いた後に、ばらばらになった絵本の挿絵を正しく並び替え、その絵の台詞や文章を考え、発表する、という内容です。題材となった絵本は、『うらしまたろう』（低学年）、『注文の多い料理店』（高学年）です。



この授業を、とても楽しく参観させていただきました。でも楽しかったのは子どもたちも同様だったことでしょう。子どもたちは意欲的に活動に参加し、物語の台詞や文章を考えて書き、発表していました。学級では当日の授業までに『わらしべちょうじゃ』『こぶとりじいさん』『山ねこおことわり』などの作品を題材にして、この活動に取り組んできたそうです。教室には、それらの活動で子どもたちがこれまでに書いた、物語の台詞や文章が並べられていました。順番に読ませていただいたときに、私はあることに気づきました。それは、子どもたちの書いた文章が、活動を進めるにつれて表現が豊かになって行っていることでした。聞けば子どもたちの中には、以前は本を読むことに抵抗があった子どももいたということで、当日の楽しい授業につながるためには先生方の熱心な教材研究と継続的な支援があったことに深く感謝を受けました。

すべての実践について言えることなのですが、この実践についても、特別支援教育を受ける子どもたちだけに有効ということではなく、実はあらゆるシーンで昔話や物語などに対する子どもたちの興味・関心を高めることについて有効です。そのことにも、私は改めて気づかされました。子どもたちの成長のためにもぜひ、自分の学級でも、この楽しい授業に取り組んでみようと感じました。

様々な学びと気づき、そして出会いを与えてくださった今回の札幌大会に、参加することができたことを感謝いたします。次回は旭川市で開催します。皆さんのお越しを心よりお待ちしております。

支部だより ～帯広支部

帯広支部は、帯広市立図書館と連携しながら、子どもの読書環境の充実発展を目指して活動しています。コンクール部と研究部で構成されており、司書教諭、学校図書館担当者、図書館員等の会員で取り組んでいます。

コンクール部は、読書感想文出品数の拡大と審査、表彰式等、研修部は、実践に役立つ実務研修等を行っています。コンクール部では、現在まで以下のことを行いました。

- ・9月5日 「第1回 読書感想文審査会」 ・10月4日 「第2回 読書感想文審査会」

読書感想文コンクール表彰式は11月25日に予定されています。

研究部では、現在まで以下のことを行いました。

- ・4月6日 「年度初め業務についての研修会」
今年度初めて学校図書館の担当になった職員向けの研修会です。
- ・6月21日 「図書館実務講習会」
基本的な実務でブックカバーのかけ方などを練習します。

- ・7月28日 「第1回 学校図書館クリニック」 ・9月28日 「第2回 学校図書館クリニック」

子どもたちが通いたくなる図書室を目指して、配架や表示の仕方など、実際に小学校の図書室を使って研修します。

これからは、「授業交流・読書指導交流会」「蔵書点検講習会」「中学校図書委員交流会（12月9日）」
「図書ボランティア交流会」の計画を進めているところです。

（文責 帯広市学校公共図書館研究会事務局長 帯広市立柏小学校 主幹教諭 日根野 郁代）

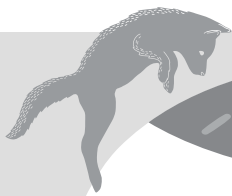
第29回読書感想画コンクール・第5回全道コンクール募集要項

- 1 主 催 公益社団法人全国学校図書館協議会 毎日新聞社 北海道学校図書館協会
- 2 後 援 北海道・北海道教育委員会・公益財団法人北海道青少年育成協会・北海道読書推進運動協議会・北海道国語教育連盟・北海道造形教育連盟
- 3 対象図書 (1) 自由読書(推薦「北海道青少年のための200冊」)(2) 指定読書(主催者が指定した図書)
上記の中から本を選び、その読後感を感想画で表現する。
- 4 応募締切 平成29年12月25日(月)
- 5 応募資格 北海道内の小学校・中学校・高等学校に在学する児童生徒
満20歳以下に限る。(1997年4月2日以降出生)
- 6 作品規定 ※感想画用紙は、画用紙・ケント紙・キャンバスボード・マニラ紙・ボール紙いずれでも可。
(ワク貼りキャンバスや木製パネルなど厚みのある作品は不可)
作品の寸法は、36cm×25cm以上で、55cm×40cm以下(8つ切～4つ切)とする。
※絵具は、クレヨン・パステル・水彩・油絵具など自由。版画・はり絵も可。
(ただし、立体など厚みのあるものを貼付した作品及び破損しやすい作品は審査の対象としない。)
※作品の裏面に、応募票・作画感想(200字以内)を貼付すること。(用紙は中央コンクール応募要項のものを使用) ※作画感想は原則として自筆とする。
※募集要項に合わないもの、読んだ本にある絵をまねたもの、ポスター、映画・ビデオ・DVD等の
場面をまねたものは審査の対象としない。
- 7 応募に当たって
※一人で自由読書・指定読書それぞれ各1点応募できる。
※応募作品の著作権・出版権は主催者に帰属し、原則として作品の返却はしない。
※作品は必ず在籍校に提出し、学校単位で応募すること。
- 8 応募先 ☎060-8643 札幌市中央区北4条西6丁目1 毎日新聞社北海道支社
『第29回読書感想画コンクール・第5回全道コンクール』係
電話011-281-5252 FAX011-251-3551
- 9 審査 主催者が委嘱した審査委員により行う。
- 10 審査区分 ①小学校低学年(1・2・3年)の部 ②小学校高学年(4・5・6年)の部
③中学校の部 ④高等学校の部
- 11 賞 1) 個人賞
①最優秀賞 ②優秀賞 ③優良賞 ④奨励賞
2) 学校賞～上記の①②③を受賞した児童生徒の在籍校の中で優秀と認められる学校
※各部上位各4点(自由2点・指定2点)、合計16点を北海道代表作品として中央コンクールに提出する。

	◎指定図書(書名)	著者名	出版社	価格(税別)
小学校 低学年	おにぼう	くすのきしげのり(作)伊藤秀男(絵)	PHP研究所	1,200円
	あなのなかには…	レベッカ・コップ(作・絵) 長友恵子(訳)	フレーベル館	1,300円
	ペンギンかぞくとおそろしい山	藤原幸一(著)	アリス館	1,400円
	シロナガスクジラ	ジェニ・デズモンド(さく) 福本由紀子(やく)	BL出版	1,600円
小学校 高学年	流れ星キャンプ	嘉成晴香(作)宮尾和孝(絵)	あかね書房	1,300円
	いたずらっ子がやってきた	カトリーナ・ナネスタッド(作) 渋谷弘子(訳)こべんなな(絵)	さ・え・ら書房	1,500円
	ぼくが消えないうちに	A・F・ハロルド(作)エミリー・グラ ヴェット(絵)こだまともこ(訳)	ポプラ社	1,500円
中学校 ・ 高校	本当はすごい森の話：林業家からのメッセージ	田中惣次(著)	少年写真新聞社	1,600円
	駅鈴(はゆまのすず)	久保田香里(作)坂本ヒメミ(画)	くもん出版	1,600円
	スピニー通りの秘密の絵	L・M・フィッツジェラルド(著)千葉茂樹(訳)	あすなろ書房	1,500円
	青い目の人形物語2 ：希望の人形日本編	シャーリー・パントレー(作) 河野万里子(訳)	岩崎書店	1,700円
	スマイル! ：笑顔と出会った自転車地球一周157カ国、155,502km	小口良平(著)	河出書房新社	1,300円
ひととはなぜ星を見上げるのか ：星と人をつなぐ仕事	高橋真理子(著)	新日本出版社	1,800円	

平成29年度 北海道の先生がおすすめる本

北海道指定図書



小学校低学年の部



ソーニャのめんどり

フィービー・ウォール/作
くもん出版 定価1,400円+税
大事なめんどりが襲われ、悲しみでいっぱいソーニャにお父さんが伝えたことは…。命のつながり、親子の絆を描く。



おばあちゃんとバスにのって

マット・デラ・ペーニャ/作 クリスチャン・ロビンソン/絵
鈴木出版 定価1,500円+税
雨の日曜日、おばあちゃんと二人でお出かけ。道々のおばあちゃんの魅力的な言葉で、ジェイの心は豊かになっていきます。



すばこ

キム・ファン/作 イ・スンウオン/絵
ほるぶ出版 定価1,500円+税
すばこは、人が作った鳥の家です。でも、何のためにだれが作ったのでしょうか。すばこのはじまりと楽しみ方を伝えます。



とびっきりのともだち

エイミー・ヘスト/文 エイミー・ペイツ/絵
BL出版 定価1,400円+税
海辺でひとり遊ぶ少年の足元に寄ってきた迷子犬。愛犬を失い悲しみを抱えていた少年は、子犬とふれあううちに心を開いていく。

小学校中学年の部



ひまなこなべ アイヌのむかしばなし

菅野 茂/著 どい かや/絵
あすなる書房 定価1,400円+税
アイヌではクマをしとめると、感謝の気持ちをこめて宴を開きます。万物を大切にアイヌの思いがよく描かれている美しい絵本。



このあとどうしちやおう

ヨシタケ シンスケ/作
ブロンズ新社 定価1,400円+税
しんだらどうなる? どうしたい? ぼくだったら、どうしちやおうかな。いま、いきているあいだにかながえてみよう!



警察犬になったアンズ 命を救われたタイプードルの物語

鈴木 博房/著
岩崎書店 定価1,300円+税
殺処分前、訓練士に引き取られ試験に見事合格! 才能を開花させていく様子を通して、あきらめずに、がんばる大切さを伝える。

小学校高学年の部



ハーネスをはずして 北海道盲導犬協会の老犬ホームのこと

辻 恵子/著
あすなる書房 定価1,300円+税
世界初の老犬ホームで働く著者が、ホーム設立のいきさつから犬とのつらい別れまで、知られざる犬との日々を綴った感動のエッセイ。



レシピにたくした料理人の夢 難病で火を使えない少年

百瀬 しのぶ/文 汐文社 定価1,400円+税
難病の母に代わり6歳で台所に立った男。しかし彼も母と同じ病気にかかり…。形を変えても夢を追い続ける勇気の物語。



いつも心の中に

小手鞠 るい/作 金の星社 定価1,300円+税
愛する人との突然の別れ…。心を閉ざしてしまった少女が悲しみを乗り越えていく姿を描いた、家族の絆の物語。

中学生の部



知里幸恵物語 アイヌの「物語」を命がけで伝えた人

金治 直美/著
PHP研究所 定価1,400円+税
「アイヌ神謡集」を日本語に訳し、アイヌ文化を生徒に向けて守ろうとした知里幸恵。彼女のひたむきな生き方を紹介。



駅 鈴 (はゆまのすず)

久保田 香里/作
くもん出版 定価1,600円+税
メールも電話もない時代。馬に乗り、駅鈴を鳴らし、急を告げる人々があつた。古代道路を疾走する、奈良時代の青春物語。

感想文は夏休み明けに、学校に出してください。詳しくは、「応募のきまり」をご覧ください。

●ホームページ

北海道学校図書館協会 [検索](#)

北海道の本を読みましょう!

第63回 青少年読書感想文全道コンクール
第43回 北海道指定図書読書感想文コンクール



第50回北海道学校図書館研修講座へのご案内

主催 ●北海道学校図書館協会
後援 ●北海道教育委員会 札幌市教育委員会
趣旨 ●学校図書館の運営及び情報・メディアを活用する学び方の指導、並びに読書指導に関する基本的事項について理解を深めるとともに、学校図書館の目指す方向と役割についての見識を深め、学校図書館の機能の向上を図ることを目的とする。

日時 ●平成30年1月9日(火)～11日(木)
会場 ●北海道立道民活動センター (かでの2・7)
 札幌市中央区北2条西7丁目 ☎(011)204-5100
 ●札幌市立光陽小学校
 ●札幌市立発寒中学校
 ●藤女子大学

参加資格 ●学校図書館及び読書指導・学び方の指導に関わっている方ならどなたでも参加できます。

定員 ●150名
参加費 ●4,000円(資料代を含む)
参加申込 ●参加ご希望の方は、研修講座参加申込書に必要事項を記入して、11月7日(月)～12月15日(金)の期間に直接FAXにてお申し込みください。
 申込書は、当協会のホームページ「研修講座」からダウンロードしてください。
 申込先 FAX(011) 661-3763
 札幌市立発寒中学校 本間 由美

A. 共通講座
講演 「次期学習指導要領と学校図書館の役割の重要性(仮題)」
 文部科学省初等中等教育局児童生徒課長 坪田 知広

B. 選択講座：ファーストコース
 1. 講義 「管理・運営」
 札幌市立元町北小学校 教諭 赤平 沙絵
 2. 講義 「図書館活動」
 札幌市立宮の丘中学校 札幌市立新陵中学校 学校図書館司書 浅村 麻姫子
 3. 講義 「読書指導」
 札幌市立上白石小学校 司書教諭 山田 佳子
 4. 講義 「情報・メディアを活用する学び方の指導」
 札幌市立発寒中学校 司書教諭 本間 由美

C. 選択講座：ステップアップコース

1. 講義・実習 「この資料、ぜひ学校図書館にそろえたい！」
 札幌聖心女子学院中学校・高等学校 司書 新田 裕子
 2. 講義・実習 「ステップアップ・読書アニメーション」
 札幌市立栄小学校 司書教諭 佐藤 広也
 3. 講義・実習 「朗読を楽しもう」
 元HBCアナウンサー・朝日カルチャー講師 安藤 千鶴子
 4. 講義・実習 「いきいき・ワクワク読み聞かせ」
 札幌市立もみじの森小学校 教諭 安藤 理恵子
 5. 講義・実習 「一日まるごとクリニック」
 旭川市立愛宕中学校 司書教諭 加藤 直子
 6. 講義・実習 「楽しく進める『学び方の指導』各論その1
 情報カードの作成と参考図書の利用法」
 (公社)全国学校図書館協議会 学校図書館スーパーバイザー 佐藤 敬子
 7. 講義・実習 「レファレンスの実習」
 藤女子大学 非常勤講師 松本 秀人
 8. 講義・交流 「学校司書の専門性を問う」
 北海道学校図書館協会 研究部 谷口 初江

D. 校種別選択講座

1. 討議 「図書館資料の活用とその指導～小学校」
 江別市立第二小学校 司書教諭 井上 陽子
 2. 討議 「図書館資料の活用とその指導～中学校・高等学校」
 札幌市立東栄中学校 司書教諭 船渡川 生子
 3. 討議 「図書館資料の活用とその指導～特別支援」
 釧路市教育委員会 学校教育部長 高木 亨

E. ナイター

1. 教えて！著作権
 2. こんな本あるよ！
 3. 大人のための絵本セラピー®

F. 指導者研修講座(全道研究部長会)

1. 第42回北海道学校図書館研究大会(札幌大会)について
 2. 支部研究交流
 各支部研究部長
 北海道学校図書館協会研究部長 山田 佳子(札幌市立上白石小学校 司書教諭)
 北海道学校図書館協会事務局長 黒澤 敏行(札幌市立琴似中学校 校長)

～研修日程～

1月9日(火)〈かでの2・7〉 ※受付は4階大会議室で行います。直接お越しください。

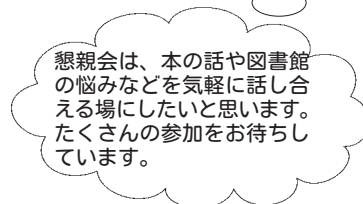
9:30	10:00	10:25	12:00	13:15	13:30	14:45	16:30	18:00	20:00
受付	開講式	A. 講演	昼食	B1. 管理・運営	B2. 図書館活動				E1. 著作権
				C1. 資料収集					E2. こんな本
				C2. アニメーション					E3. 絵本セラピー
				F1. 研究部長会					

1月10日(水)〈かでの2・7、札幌市立光陽小学校、札幌市立発寒中学校、藤女子大学図書館〉

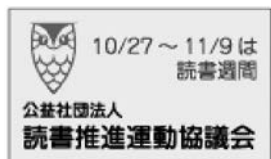
9:30	12:00	13:15	13:30	14:45	16:30	18:00
C3. 朗読	昼食	B3. 読書指導	B4. 学び方の指導			懇親会
C4. 読み聞かせ		C7. レファレンス(藤女子大図書館)				
C5. クリニック(光陽小)		C5. クリニック(光陽小)				
C6. 学び方(発寒中)		C8. 学校司書				
F2. 研究部長会						

1月11日(木)〈かでの2・7〉

9:30	11:30	11:50
D1. 討議〈小〉	閉講式	
D2. 討議〈中・高〉	閉講式	
D3. 討議〈特別支援〉	閉講式	



学校図書館情報



◆「本に恋する季節です！」
2017年 第71回 読書週間
10月27日(金)～11月9日(木)



今年の標語は、「本に恋する季節です！」。作者の三浦和也さんの思いは、「本に親しみを持つ人々が少しでも増えてほしいと願い、標語をつくりました。とくに『恋』という言葉を使うことで、若い世代の目にとまればいいなあ、本の世界にときめいてくれるといいなあ、と考えました。」というものです。ポスターイラストをつくった、有賀千華さんのコメントです。「人との出会いと同じように、自分が見ている世界の見え方が変わるなどといった影響を受けたりして、本との出会いにも運命を感じるようなことがあると思います。そんな本との出会いを楽しんでほしいと思います。」

◆学校図書館研究会 in オホーツク第5回研修会

- ・後援 北見市教育委員会・網走市教育委員会・紋別市教育委員会
- ・日時 11月23日(木・祝)14:00～24日(金)16:00まで
- ・場所 北見市立中央図書館 ほか
(北見市泉町1丁目2-21)
- ・講師 渡邊重夫氏 (元藤女子大学教授)
- ・参加費2,000円 (会員の方1000円)
- ・夕食費3,000～5,000円程度 (現地での注文)
- ・問い合わせ 網走市潮見小学校 小松秀治まで
(TEL:0152-43-5814)

《1日目》11月23日(木・祝)

13:40	14:00	14:10	16:30	18:00	20:30	22:00
受付	開会	【研修1】 実践発表・研究協議 (北見市立中央図書館)	移動	【夕食交流会】 「講師を囲む会」 (オホーツクビール園)	【ナイトー】 情報交流会 (旧福村書店2階)	

《2日目》11月24日(金)

9:40	10:00	10:10	12:00	13:00	15:30	16:00
受付	開会	【研修2】 講座 レファレンス(講義) 講師 渡邊重夫氏 (北見市立中央図書館)	休憩	【研修3】 講座 レファレンス(講義)・ レファレンス(実習) 講師 渡邊重夫氏 (北見市立中央図書館)		閉会

事務局

事務局長 黒澤敏行 (札幌市立琴似中学校長)
事務局校 札幌市立琴似中学校
〒062-0004 札幌市西区山の手4条2丁目1-1
TEL 011-611-1351 FAX 011-615-9617

Amenity B-Coat

本の破損や汚れを防ぎながら、抗菌効果を発揮するブックカバー「アメニティBコート」ポリプロピレンフィルムのため、燃焼時にも塩素ガスなど有害物質が発生せず、安心です。ご指定の上ご愛用下さい。

キハラ株式会社

〒062-0035 札幌市豊平区西岡5条3丁目8-15
TEL (011) 857-3331
FAX (011) 857-5211

◆新刊紹介 学校図書館の可能性

—自ら考え、判断できる子どもを育てる—
渡邊重夫著 全国学校図書館協議会発行
定価2,500円(税別) ISBN978-4-7933-0097-4

時代はいつも不透明、不確実ですが、こうした時代こそ、事実を自らの目で確かめ、自己と社会の有り様を洞察できる子どもを育てることが大切です。「自ら考え、自ら判断できる」子どもです。そうした子どもは、自分の将来のみならず、この国の未来を切り拓いていくことができるのです。学校図書館は、そうした子どもの「成長・発達」を、資料と「人」の力によって支える学校教育における「不可欠」的教育環境です。～カバー袖の著者の言葉より



【もくじ】

- 第一章 「不可欠」的存在としての学校図書館
—「自発的学習」をキーワードに
- 第二章 アクティブ・ラーニング(「主体的・対話的で深い学び」)
—「学び方の学び」を支える学校図書館
- 第三章 「セーフティネット」としての学校図書館
—子どもの「学び」と「育ち」を支える
- 第四章 図書委員会活動の意義と活動内容
—自主性、主体性を基礎に子どもを育てる

編集後記

空の色が濃くなり、いよいよ秋が深まってまいりましたが、皆さまお変わりございませんでしょうか。本号は9月開催の北海道学校図書館研究大会札幌大会を始め、各地で開催された様々な大会・行事についてお知らせしています。読書週間に入り、子どもと本を、より一層近づける実践を積み上げていきたいものです。

(編集: 杉本 操 村山 知成 野村 邦重)
大久保雅人 黒澤 敏行

ホームページアドレス
<http://sla.gr.jp/~hokkaido-sla/>